



日本産ミツギリゾウムシ科概説(1)

森本 桂

はじめに ミツギリゾウムシ科は熱帯、亜熱帯を中心に分布する1,300種余を含む科で、変化に富んだ面白い形をしている種が多いことから、採集すれば必ず標本にして調べてみたくなる仲間の一つである。ここでは、現在までの知見をまとめて解説を行うが、今後発見される種も多いと思われるので、あやしいと思われる標本があれば調べさせていただきたい。

科の定義 細長い体と糸状の触角をもつことや、雌雄で吻の形が異なる種が多いことなどで一見して区別できる科である。球桿部の発達しない触角や、幼虫に2節からなる胸脚のあることなどから、ゾウムシ上科(具吻類)の最初に位置させる研究者が多かったが、CROWSON (1953) は本科をホソクチゾウムシ科 Apionidae の近くに置き、MORIMOTO (1962) はこの両科を同じ科に含めたが、1976年に再検討を行って両科を区別し、ミツギリゾウムシ科につき定義を与えた。

成虫：吻は前方にのびて曲らず、頭部は眼の後方でくびれるものが多い。下唇ひげは下唇前基節背面の窪みにつく。触角は折曲らない。前胸は前縁後方と後縁前方で強くくびれることが多く、pleuro-sternal suture は明瞭。肢の転節は小さく、腿節は基節に接する。腹部の第3・4腹板は融合して曲らない。雄の尾節板は第8背板よりなる。雄交尾器の陰茎は背板と腹板とからなり、側片はよく発達する。前胃は内面に骨板が発達していない。

幼虫：頭部の前頭縫合線は大あご基部の関節膜に達し、触角は完全に前頭板に含まれる。上咽頭帯 Labral rods はある。大あごに磨縁部を欠く。

研究史 LINNÉ (1758) は現在この科に含まれる *anchorago* を *Curculio* で記載し、FABRICIUS (1787) は *Mantissa Insectorum, I* に *Brentus* 属を設定して9種を、また1801年の *Systema Eleutheratorum, II* では27種を含めた。

ゾウムシ上科分類の基礎をつくった SCHÖNHERR (1826) はこの科を *Divisio Brentides* として特

徴づけ、1833と39年には25属152種を記載した。LACORDAIRE (1866) は2亜科12族60属をまとめ、この体系は SCHÖNFELDT (1908) の *Genera Insectorum, Brentidae* に引継がれた。この科は多くの人により研究が行われたが、KLEINE (1914~'50) は140篇にのぼる論文を発表し、1927年に *Coleopterorum Catalogus, Brentidae* の改訂版、1930年に文献目録、1938年に *Genera Insectorum, Brentidae* の改訂版、1937~39年には全種の検索表を発表してこの科の分類の基礎をつくった。しかし、KLEINE の研究には特徴のとらえ方に甘い点があり、族や属への検索表に例外も多く、また雄の形態のみで属を区別したものも多い。DAMOISEAU (1961~) は雌雄形態の再評価や雄交尾器形態の分類体系への導入、タイプ標本の再調査による属や種の再検討を行っている。

この科は *Brentidae* と *h* を入れて綴られることが多いが、模式属の原綴が *Brentus* であることから、KUNTZEN (1937)、DAMOISEAU (1962) らは *Brentidae* を用いている。

日本のミツギリゾウムシ科は ROELOFS (1879) が HILLER の採集品に基いて *Baryrhynchus poweri* を記載したにはじまり、LEWIS (1884) は1880年と81年の夏に採集した5新種を記載し、ROELOFS の種を含めて6種を図示した。鹿野 (1930) や三輪・中条 (1939) は台湾を含む日本産の目録を発表したが、今の日本からは6種が記録されているにすぎない。NAKANE (1963) は3新種を記載し、北隆館の原色昆虫大図鑑Ⅱに2新記録種とアリモドキノゾウムシを含めて12種を図説した。OHYASHI & SATO (1966) は悪石島から美しい *Baryrhynchus tokarensis* を記載し、MORIMOTO (1976) は6新種、4新記録種を含めて24種をまとめた。

和名について 日本のミツギリゾウムシ類には三輪・中条 (1939) が和名を与えたが、種名や産地をもとにした和名が多く、また種類が増えてくると和名からのイメージが必ずしも適切でないものがで

てきた。中根(1963)はこれらの一部を改名し、3種に新和名を与えたが、記録種が当時の倍以上になってくると同属の近似種などを適切に区別できる和名が必要になってきた。このような現状から、この概説で族や属に基名を与える方法で和名の整理を行った。

分類体系 KLEINE (1938) はアリモドキゾウムシを除くいわゆるミツギリゾウムシを族に大別し、DAMOISEAU (1962, 63, 67) は4亜科に大別して KLEINE の族の再編成を行っているがまだ完成していない。ここでは便宜的に下記の大別をしておく。

亜科と族への検索表

1. 前肢基節は接する。爪は基部で融合する……………アリモドキゾウムシ亜科 *Cyladinae*
- 1'. 前肢基節は離れる。爪は離れる……………ミツギリゾウムシ亜科 *Brentinae*
2. 前胸側縁は腿節のあたりに付近で強く圧せられる。吻は雌雄同形……………ホソミツギリゾウムシ族 *Calodromini*
- 2'. 前胸側縁は圧せられない……………3
3. 第3跗節は横から多少圧せられ、末端は浅く切れ込むか又は丸い……………4
- 3'. 第3跗節は平たく、2葉状……………6
4. 吻は雌雄同形で、横に張りだす突出はない。中～小型種……………5
- 4'. 吻は雌雄で非常に異なり、横への突出がある。中～大型種。……………オニミツギリゾウムシ族 *Amorphocephalini*
5. 前脛節には内側に大きなかぎ状の突起があり、突起と脛節端の間に毛列がある。小型で扁平な種。……………ヒラタミツギリゾウムシ族 *Stereodermini*
- 5'. 前脛節内側に突起を欠く……………ヒメマルミツギリゾウムシ族 *Holopisthini*
6. 触角には球桿部が認められる。吻に歯状突起を欠く。赤褐色の地に黒～暗色紋のある中～小型種……………ヒメミツギリゾウムシ族 *Trachelizini*
- 6'. 触角には球桿部がなく、末端節は細長く円筒状。雄の吻は両側に歯状突起か隆起条がある。赤褐～黒色の地に橙～赤色紋のある大型種。……………オオミツギリゾウムシ族 *Arrhenodini*

Subfamily Cyladinae アリモドキゾウムシ亜科
この亜科をホソクチゾウムシ科へ含める人も多いが、下唇や転節などの形態からミツギリゾウムシ科へ含めるのが適当であると考える。

Genus *Cylas* LATREILLE, 1802 アリモドキゾウムシ属

アジアからアフリカにかけて22種が分布し、下記の種はアメリカや日本へも移入している。

1. *Cylas formicarius* (FABRICIUS, 1798)

アリモドキゾウムシ

有名なサツマイモの害虫で、グンバイヒルガオ、アサガオ、ハマヒルガオなども食害する。日本の図説類などはいずれも正しく同定されており、近似種もないので同定は容易である。

上翅は緑青色、前胸は赤褐色、頭部は黒色、肢は赤色で腿節の一部が暗色を帯びる。雄は触角末端節が著しく長い。体長(吻を含む)6~7mm。

turcipennis BOHEMAN は異名で、アメリカの上翅は上翅が青色をしていることで別亜種 *subsp. elegantulus* SUMMERS として区別されているが再検討する必要がある。

分布: 南北アメリカの熱帯～亜熱帯、西インド諸島、アフリカ(ウガンダ、ゴールドコースト)、マダガスカル、オーストラリア、アジア(インドからニューギニアまで)、ハワイ、グアム、台湾、小笠原、琉球、奄美大島、トカラ列島。種子島の西表市壱泊と馬毛島及び開聞町でも発見されて強力な撲滅作業が展開され、それ以後発生は認められていない。佐多岬でも採集された記録がある。

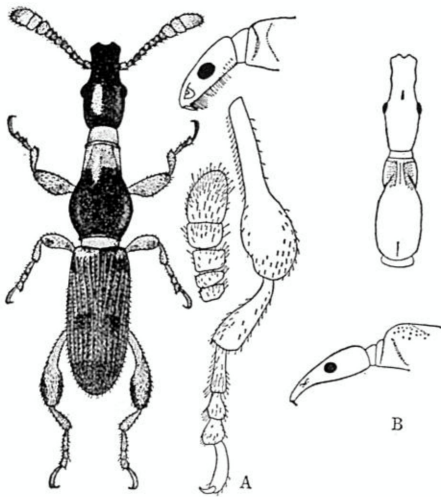
Subfamily Brentidae ミツギリゾウムシ亜科
Tribe Calodromini ホソミツギリゾウムシ族

属への検索表

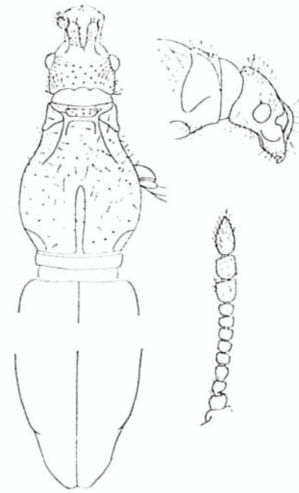
1. 後腿節は上翅端をはるかにこえる。頭部と吻は比較的細長く、上翅の全間室は完全……………ホソミツギリゾウムシ属 *Cyphagogus*
 - 1'. 後腿節は上翅端をこえない……………2
 2. 頭部と吻は短く、後頭のくびれと眼の距離は眼の長径と等長、頭部と吻下面は圧せられ長毛がある。触角は吻の上背側～側方につき、触角溝の前背面は隆起条で境される。前胸は幅よりやや長く、背面前縁中央に隆起条に囲まれた横長矩形の窪みがある。体に長毛がある……………エノキミツギリゾウムシ属 *Eterozemus*
 - 2'. 体は細長い円筒状で、吻は幅より長い。頭部の眼と後頭くびれの距離は眼の長径より長い。触角は吻の側背面につき、触角溝の前背面に隆起条を欠く。前胸は前縁にそって溝があるのみ。体や頭部下面に長毛を欠く……………ツツホソミツギリゾウムシ属 *Callipareius*
- Genus *Cyphagogus* PARRY, 1849** ホソミツギリゾウムシ属

この属は KLEINE (1921) のモノグラフと DAMOISEAU (1964) の部分的な再検討がある。東南アジアからオーストラリアにかけて49種が記録されている。日本に2種分布し、つぎの点で区別できる。

1. 前胸背側圧部の間の部分は狭くて隆起し、中央に溝がある。前胸に点刻を粗布する。黒色で、首の部分、吻、触角は赤褐色。前胸基部と上翅基部もときに赤褐色。肢は赤褐色で、腿節肥大部は暗褐色。体長4~6.5mm……………*signipes* LEWIS
- 1'. 前胸背側圧部の間の部分は広く、中央に溝がない。前胸の点刻は微細で粗布。赤褐色で、頭部(首部を除く)、吻、前胸背(前・後縁を除く)及び後胸は黒～黒褐色。上翅は基部と中央及び翅端に暗色の帯がある。体長5.1mm……………*iwatensis* MORIMOTO
2. *Cyphagogus signipes* LEWIS, 1884 ホソミツギリゾウムシ



第1図 A: *Cyphagogus iwatensis* MORIMOTO ;
B: *Cyphagogus signipes* LEWIS (after
MORIMOTO, 1976).



第2図 *Eterozemus celtis* LEWIS (after DAMOISEAU, 1965).

本種は LEWIS (1884), 三輪・中条 (1939) の日本産鞘翅目分類目録, 三錐象虫科の口絵, 中根(1950, 63) による日本昆虫大図鑑と原色昆虫大図鑑Ⅱに図示されている。

分布: 本州, 九州, 対馬, 奄美大島, 台湾。

3. *Cyphagogus iwatensis* MORIMOTO, 1976
チャパネホソミツギリゾウムシ

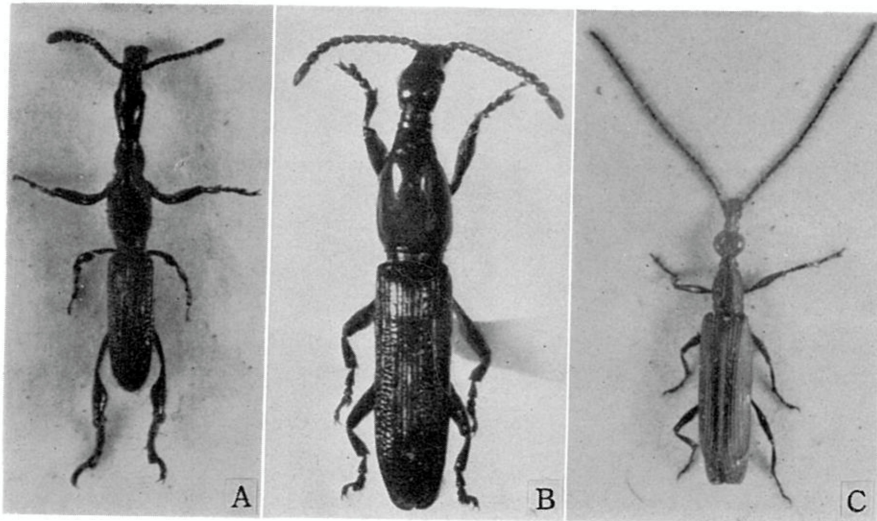
昆虫44(3): 268, 1976 に記載したもので, 岩手県の新里村二又沢と黒森山で佐藤及び小宮氏の採集した各1頭のみが知られている。

Genus *Eterozemus* SENNA, 1902 エノキミツ
ギリゾウムシ属

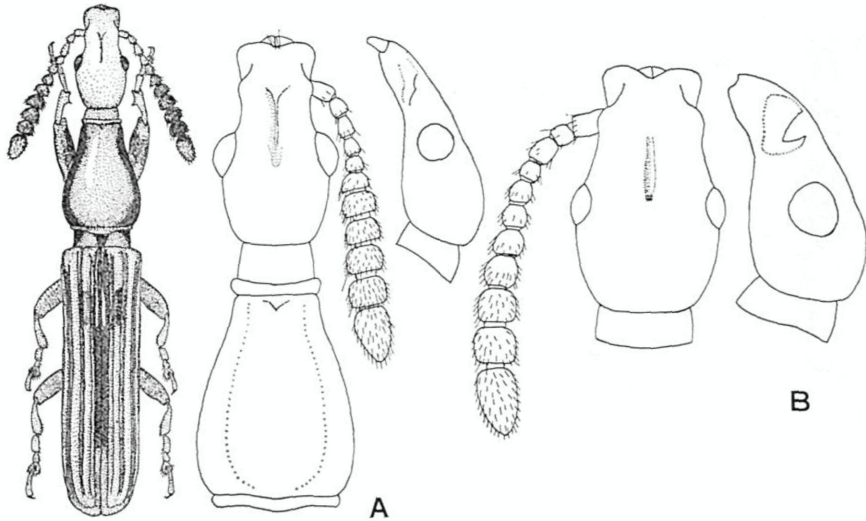
この属と近似属を KLEINE は雄の吻などによって多くの属に分けたが, DAMOISEAU (1993) は *Dictyopteris* KLEINE, *Orthopareia* KLEINE 及び *Sparganophasma* KLEINE を本属に含めた。

4. *Eterozemus celtis* (LEWIS, 1884)
エノキミツギリゾウムシ

LEWIS (1884), 中根 (1963), DAMOISEAU (1965) によって図示されている。



第3図 A: *Cyphagogus signipes* LEWIS, Type, Nagasaki ; B: *Callipareius formosanus* KLEINE; C: *Jonthocerus nigripes* LEWIS, Type, Ichiuchi.



第4図 A: *Callipareius* sp. (Miyake-Jima); B: *Callipareius japonicus* NAKANE

赤褐色で上翅中央両側に暗色の斑紋があり、体には淡黄色の長毛がある。体長 6~6.5mm。

分布：九州（人吉，肥後，佐多）。

Genus *Callipareius* SENNA, 1892 ツツホソミツギリゾウムシ属

DAMOISEAU (1965) は *Diastrophus* PERROUD, *Asaphepterum* KLEINE, *Coomania* KLEINE, *Pseudosebasius* KLEINE, *Metacidotes* SCHEDL を本属に含め、*Callipareius* と *Coomania* 2亜属を認めた。アフリカからアジアにかけて12種が分布し、日本には1未記載種を含めて3種いる。

日本産3種への検索表

1. 上翅の第4, 6, 8間室は基部のやや後方で消失

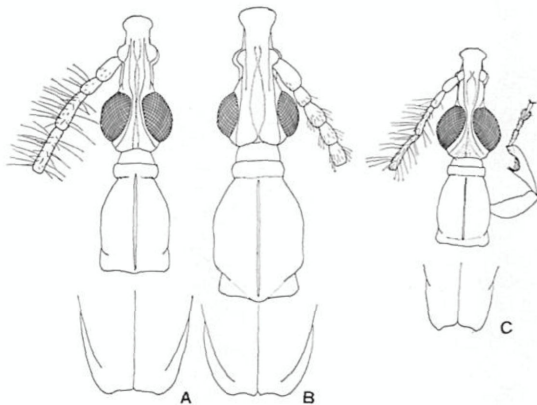
し、梯子状の点刻列になる。光沢ある黒色で、前胸はときに赤褐色……………*formosanus* KLEINE

1'. 上翅の各間室は完全…………… 2

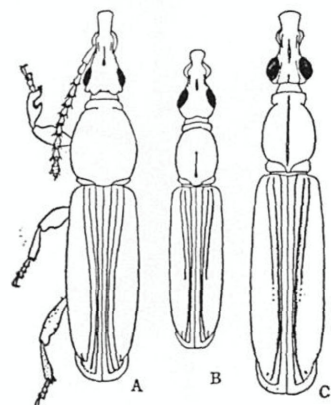
2. 触角第9, 10節は長さと同幅がほぼ等しい。吻は短くて厚い。前胸は赤褐色、上翅も赤褐色で、会合部と側縁は暗色…………… *japonicus* NAKANE

2'. 触角第9, 10節は横長、吻は長くて扁平。前胸の側面と下面は黒く、背面中央は幅広く赤褐色。上翅は黒く、第3, 5, 9間室と先端部は黄褐~赤褐色……………未記載種

5. *Callipareius* (*Callipareius*) *formosanus* (KLEINE, 1916) ツツホソミツギリゾウムシ



第5図 A-B: *Cerobates* (*Jonthocerus*) *nigripes* LEWIS (A: male, B: female); C: *Cerobates* (*Jonthocerus*) *laticostatis* KLEINE, male.



第6図 A: *Cerobates* (*Cerobates*) *planicollis* MORIMOTO; B: *Cerobates* (*Cerobates*) *formosanus* SCHOENFELDT; C: *Cerobates* (*Cerobates*) *canaliculatus* MOTSCHULSKY (after MORIMOTO, 1976).

KLEINE (1916) は本種の上翅第4, 6, 8間室が基部の後方から消失して梯子状の点刻列になることで *Asaphpterum* 属を設定したが、これは DAMOISEAU のいう *Callipareus* 属の中でも他に見られない特徴である。

光沢ある黒色で、前胸の色は個体変異が多く、黒色のもの、赤褐色のもの、中央より後半が赤褐色のもの、前縁と後縁を除いて赤褐色のものなどがある。体長 4.1~11.3mm。

分布：トカラ中之島、台湾、フィリピン、ボルネオ。

6. *Callipareus (Callipareus) japonicus* (NAKANE, 1963) アカツツホソミツギリゾウムシ (ホソスジヒメミツギリゾウムシ)

赤褐色円筒形で、上翅会合部と側縁は暗色をおびる。体長 6~7.5mm。

分布：本州(三重県平倉)、九州(福岡県若杉山)、徳之島。

7. *Callipareus (Callipareus) sp.* キスジツツホソミツギリゾウムシ

体は黒色で、吻、頭部背面、前胸板中央部、触角基部4節と末端節、腿節肥大部を除く肢は赤褐色。上翅の3, 5, 9間室と先端部は黄褐~赤褐色で、第3間室の基部からやや後方に暗色部がある。体長 4.8~7.9mm。

三宅島産の標本を宮川澄昭氏の御好意で調べることができた。扁平な吻や上翅の斑紋などからビルマの *lineatosignatus* KLEINE に近似するが、体色が異なる。新種として投稿中である。

Tribe Stereodermini ヒラタミツギリゾウムシ族

赤褐~黒褐色で中~小型、扁平な種を含む族で、7属90種が知られている。日本には1属が分布する。

Genus *Cerobates* SCHOENHERR, 1840 ヒラタミツギリゾウムシ属

DAMOISEAU (1967) は *Jonthocerus* LACORDAIRE (1866) をこの属の亜属としているが、下記の検索表に示す特徴で明確に区別できるので独立属としてもよいかもしれない。

亜属と種への検索表

1. 雌雄で頭部と触角が異なる。雄では触角が細長く、3節以下の各節は円状で長毛がある。雄の眼は大きく、その間の前頭部は吻基部の1/2以下。雌雄とも頭部は吻中央部から後頭くびれまで中央溝

がある。吻は先端で丸く拡がる (*Jonthocerus* 亜属)..... 2

1'. 雌雄で頭部と触角は同形。雄の触角に長毛がなく、各節も円筒形を呈しない。前頭は眼の間で吻基部とほぼ同幅。吻と頭部の中央溝は、頭部で全部か一部が消失する (*Cerobates* 亜属)..... 3

2. 赤褐色で、肢は黒い。前胸中央部は両側平行で、先尻から前方で狭まる..... *nigripes* LEWIS

2'. 赤褐色で、肢も同色。前胸側縁は一樣に丸味をおびて前方へ狭まる..... *laticostatis* KLEINE

3. 前胸板に中央溝を欠く。上翅第3点刻列は先端近くまで溝状。吻基部はくさび形、頭部は眼の後方で三角状を呈し、後縁背面両側も三角状に突出する..... *planicollis* MORIMOTO

3'. 前胸板に中央溝がある。上翅第3点刻列は中央後方で消失する。頭部は眼の後方で角張らない..... 4

4. 上翅の側縁2点刻列は深い溝状。前胸板は全長にわたる中央溝がある。後頭部は短い..... *canaliculatus* MOTSCHULSKY

4'. 上翅の側縁に溝状の点刻列を欠く。前胸板の中央溝は浅く、前半が消失することがある。後頭部は丸い..... *formosanus* SCHÖNFELDT

8. *Cerobates (Jonthocerus) nigripes* LEWIS, 1884 クロアシゲナガヒラタミツギリゾウムシ (クロアシホソミツギリゾウムシ)

赤褐色で光沢は弱く、肢は黒褐~黒色。体長 6~8mm。

分布：本州、九州、台湾。

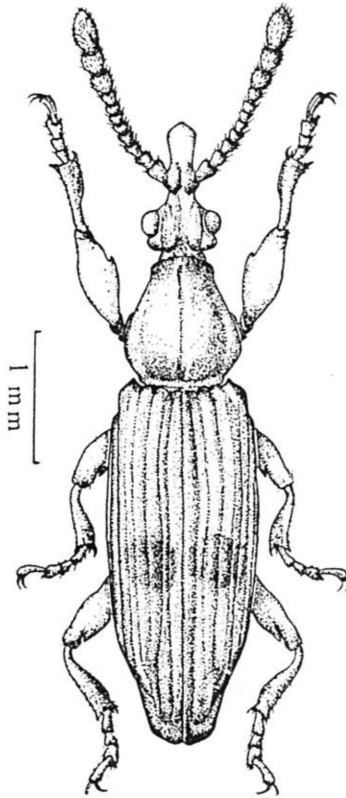
9. *Cerobates (Jonthocerus) laticostatis* KLEINE, 1919 アカヒゲナガヒラタミツギリゾウムシ (スジボソミツギリゾウムシ)

前種に酷似するが、肢も赤褐色であること、前胸は細くて側縁が一樣に丸味をおびることなどで区別できる。体長 4.5~6.6mm。

分布：沖縄 (新記録)、台湾、フィリピン、スマトラ、ボルネオ、

日本新記録で、沖縄本島奥で榎原寛氏が 17. V. 1978 採集の1雄を検している。

Jonthocerus 亜属はこの他に KLEINE (1938) によって *angulaticeps* SENNA と *ophthalmicus* PASCOE の分布に Japan があげられている。これは台湾のことである可能性が高い。この両種とも上翅第2間室が途中で途切れることで上記2種と区別できる。*angulaticeps* の頭部は眼の後方で角張り、



第7図 *Higonius cilo* LEWIS (after MIYATAKE, 1956)

体は黒色で頭部、吻、前胸及び上翅肩部は赤褐色をしている。*ophthalmicus*の後頭部は丸く、全体赤褐色である。

10. *Cerobates (Cerobates) planicollis*

MORIMOTO, 1976 カダガンラヒラタミツギリゾウムシ

光沢ある赤褐色で、前胸板に中央溝がないことと頭部の形で容易に区別できる。体長6.3~6.9mm。

分布：沖縄本島、石垣島。

11. *Cerobates (Cerobates) formosanus*

SCHÖNFELDT, 1911 ズマルヒラタミツギリゾウムシ

台湾に普通で、頭部が眼の後方で丸いことで区別できる。体長4.5~5.4mm。

分布：石垣島、西表島、台湾、フィリピン。

12. *Cerobates (Cerobates) canaliculatus*

MOTSCHULSKY, 1859 ムネミゾヒラタミツギリゾウムシ

短い後頭部や中央溝の発達した前胸板、側縁に点刻条のある上翅が特徴で、体長5.0~6.5mm。

分布：トカラ中之島、沖縄本島、台湾、ボルネオ、マラヤ、ビルマ、インド、スンダ列島。

Tribe Holopisthini ヒメマルミツギリゾウムシ族

この族は SENNA & CALABRESI (1918) によって設定されたが KLEINE (1922, 38) は Trachelizini に含めた。DAMOISEAU (1963) は7属でこの族を特徴づけて Stereodermini の近くに置いた。日本には1属が分布する。

Genus *Higonius* LEWIS, 1884

東南アジアに10種を産し、*cilo* の原産地肥後にちなんだ属名である。

13. *Higonius cilo* LEWIS, 1884

ヒメマルミツギリゾウムシ

本種は、LEWIS (1884)、宮武 (1956)、中根 (1963) によって図示され、宮武の解説は詳しい。

体は光沢のない赤褐色で、上翅の周縁部と1対の斑紋は暗色。体長4.0~6.0mm。

分布：本州、四国、九州、石垣島、西表島、台湾、フィリピン、アッサム、ベンガル。

(九州大学農学部)

○奄美大島11月の甲虫数種の記録

筆者は、昨年11月23日から26日にかけて奄美大島において採集をし、数種の甲虫類を得たので、その中の主なものを記録しておきたい。分布上、特に新記録等のものはないが、11月に同島へ訪れる人は少なく記録もあまりないと思われる。そこで、遅い時期の成虫の採集記録として発生期等生態上の知見も得るところがあると思われるので、あえて記録し諸賢の参考に供したい。なお、採集者はすべて筆者で、採集地は特に記してあるもの以外湯湾岳山頂付近である。

1. *Eurytrachellelus costatus* BOILEAU スジブトヒラタクワガタ

3♂, 2♀, 23. xi. 1978, 1♂, 24. xi. 1978; 1♂, 三太郎峠, 26. xi. 1978; 1♂, 1♀, 西仲間, 26. xi, 1978.

本種は、道路わきの側溝及び路上より拾ったもので、2頭を除いてすべて死骸であるが、ほとんど死後間もないと思われるものであった。恐らくは、一部のものは成虫越冬していると思われる。

2. *Prosopocoilus dissimilis dissimilis* (BOILEAU) オキナワノコギリクワガタ

1♀, 24. xi. 1978.

やはり死骸を拾ったものであるが、体は完全に死後間もないものと思われる。この他に、大破した♂が数多く見られた。

3. *Lucanus ferriei* PLANET アマミヤマクワガタ

1♂, 23. xi. 1978, 3♀, 24. xi. 1978.

本種は、我が国に産するクワガタムシ科において最も稀な種の一つで、今まで僅かしか得られていない様である。上記4頭とも死骸であったが、♀はほぼ完全な状態で得られた。この事は、♂は7・8月

によく採集されているのに対し、♀の出現がそれよりも遅い事を示し、ミヤマクワガタ属が特に南方においては、初夏から夏にかけて出現するものがほとんどである中で、発生時期の遅い特異な種であるといえる。

4. *Copris brachypterus* NOMURA マルダイコクコガネ

1♂, 3♀, 24. xi. 1978.

本種は記載以来、あまり採集されていないが、秋から春にかけてはさほど珍しくない様である。4頭とも側溝の水たまりで溺死していたものであるが、死後間もないと思われ、その出現時期から察して、成虫越冬している事はほぼ間違いないであろう。

5. *Geotrupes oshimanus* FAIRMAIRE オオシマセンチコガネ

1♂, 24. xi. 1978.

この種も秋に出現し、成虫越冬していると思われる。

6. *Eophileurus chinensis irregularis* PRELL アマミコカブトムシ

1♂, 24. xi. 1978.

7. *Microtrichia kawadai* NOMURA アマミヒメクロコガネ

1♀, 西仲間, 26. xi. 1978.

一般には6~7月に多く得られる種なので異例の遅い時期に採集されたものといえる。

8. *Cicindela ferriei* FLEUTIAUX アマミハンシヨウ

1♂, 1♀, 24. xi. 1978.

最盛期には島内のいたる所で見られ、極く普通な種であるが、この時期は非常に少なく僅か4頭を目撃し、その中の2頭を採集したものである。

(東京農大、境野広行)

台湾産ハネカクシ科覚え書(1)

オオクロヒョウタンメダカハネカクシ *Dianous arachnipes* PUTHZ (新称) について

柴田 泰利

オオクロヒョウタンメダカハネカクシは矢野由雄氏によって台湾中央部の嘉義県大坑山および新高口で採集された2雌を模式標本として、1971年にPUTHZにより *Dianous arachnipes* と命名記載されたメダカハネカクシ亜科 (*Steninae*) に属する種である。しかしながら、その後報告もなく、雄は未知であった。本種は極めて特徴のある種でもあり、その習性にも興味深い事柄も観察されるので、ここに全型図、雄交尾器の図と共に紹介することにした。なお、近縁のメダカハネカクシ属 (*Stenus*) とは眼が大きいが側頭部があり、腹部末端節には1対の長い刺毛を持つことなどの点で区別ができる。

***Dianous arachnipes* PUTHZ**

Dianous arachnipes PUTHZ, 1971, Ent. Rev. Japan, 23: 90.

体は黒色、頭部は弱い緑色で、翅鞘は銅状の反射がある。前背板は光沢が強い。触角、脚は暗褐色だが、前者末端数節と後者跗節末端節および爪は褐色。体長7~9mm。

頭部は大きく複眼間は広く陥没し、中央部はわずかに隆起する。全体にこまかい点刻を密に具える。前背板はわずかに幅より長く、中央部が最も幅広；輪郭が不明瞭な四つの浅い凹みがあり、前縁後方のものは横に、中央後方両側のものは斜めに、後縁前方中央のものは横に、側方のものは斜めに陥没する；表面には極めて微細な点がまばらにある。翅鞘は多少幅より長く、表面は弱い凹凸がある；全体に頭部よりいくらか小さい点刻を密に具える。腹部は末端に向かって徐々に細まり、表面には微細な点刻をやや密に具える。脚は細長く、第1節は極めて長く、2-5節の和より長い、第4節は単純、第3節末端から円筒形の膜が第5節に向かって伸びるので跗節は一見4節から成るように見える。雄は第7および第6腹板中央は浅いが幅広く切

れ込まれる。雄交尾器はほぼ長楕円形で比較的硬化が強い。中葉 (median lobe) の基部は丸いが先端に向かって狭まる、先端部は腹面側に少し曲がり最先端は小さな球形の小突起をつくる；側葉 (paramere) は細く中葉より少し長い、先端と中央部内側には若干の毛を具える。

検視標本 (筆者により採集されたものは採集者名を省略した)

台北県：烏来 (18♂♂, 12♀♀, VIII・17・1970; 1♀, VIII・19・1971, 西川 勝採集; 16♂♂, 8♀♀, VIII・27・1971; 12♂♂; 9♀♀, VIII・17・1974; 3♂♂, 3♀♀, VIII・17・1977; 7♂♂, 3♀♀, VIII・27・1978, 鈴木 互採集), 内双溪 (1♂, 5♀♀, VIII・28・1977, 松木和雄採集)。

桃園県：拉拉山 (3♂♂, VII・24・1978)。

宜蘭県：池端 (2♂♂1♀, VII・23・1978)。

南投県：関刃溪 (1♀, VII・26・26・1973), 蘆山 (2♂♂, 1♀, VIII・6・1976), 竹山 (5♂♂, 3♀♀, II・11・1977, 連日清採集)。

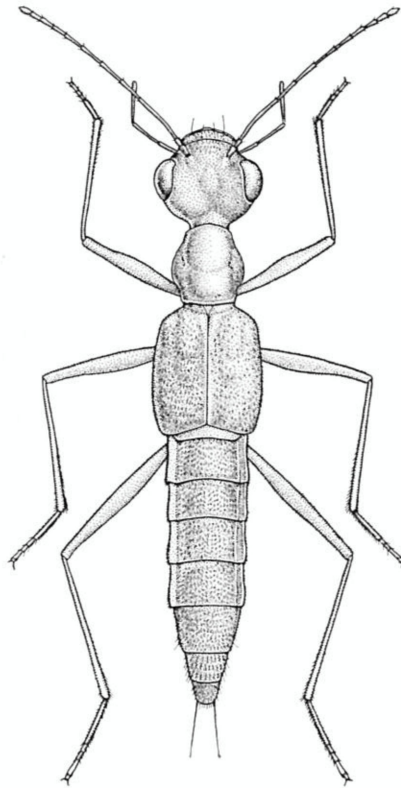
花蓮県：瑞穗 (1♂, VIII・19・1971)。

嘉義県：奮起湖 (1♀, VIII・3・1973; 8♂♂, 6♀♀, VIII・6・1976; 1♂, 1♀, VIII・6・1977; 4♂♂, 1♀, VIII・11・1978)。

高雄県：頂新発 (2♂♂, VIII・2・1976), 天池 (1♂, 1♀, VIII・1・1976), 藤枝 (2♂♂, 3♀♀, VIII・13・1978)。

本種は大型で全体黒色、翅鞘には赤色の斑紋を欠くことや触角、脚が細長いことなどの特徴

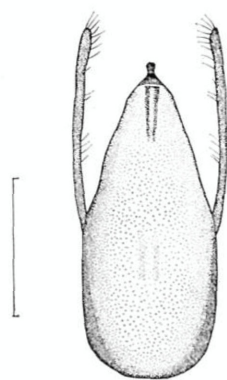
で台湾産メダカハネカクシ亜科の他の種とは容易に識別が可能である。台湾からはもう1種同属の *Dianous taiwanensis* PUTHZ が記載されていて、阿里山の溪流附近の石の上などから普通に採集されるが、体長が4.5~5.0mm と小さいことや、翅鞘に赤黄色の斑紋があることなどの点で区別は簡単であ



第1図 オオクロヒョウタンメダカハネカクシの全型図 (台北県烏来産)
Fig. 1. *Dianous arachnipes* PUTHZ, ♂ from Wulai in Taiwan.

る。しかし、台湾からは同様の斑紋をもつ未発表の種が私の手許にも2種あり、同定には注意が必要である。なお、PUTHZ (1971) の論文に *D. taiwanensis* の雄交尾器の図がある。また、オオクロヒョウタンメダカハネカクシに近縁の *D. gracilipes* CHAMPION, 1921がインド、アッサムなどから知られていて、頭部や翅鞘の点刻などにより区別されるが、若干の疑問点もあり、今後は両者を比較検討してみる必要もある。

成虫は山地帯の流れの比較的速い小さな溪流のオーバーハングしている石の下などに多く、日中は直接日の当る表面にはほとんど出てくることはなく、



第2図 オオクロヒョウタンメダカハネカクシの雄交尾器背面(台北県烏来産、縮尺は0.5 mm)。



第3図 台湾におけるオオクロヒョウタンメダカハネカクシの分布(○印は文献上の産地(模式産地)、●印は検視標本の産地)。

石のうら側や陰の部分の流れの縁に静止してあまり動かない。恐らく周囲に生活している、或いは上流からの小動物を捕食しているものと思われる。又、成虫は水に落ちると溪流附近に生息するメダカハネカクシ属 (*Stenus*) と同様に肛門両側に開口している1対の細長い尾節腺から特殊な化学物質を分泌し、水の表面張力を低下させ、水面をかなりの速度で滑走し、近くの岩などにたどりつく習性をもっている。JENKINS (1957, 1960) によるとこの化学物質は尾節腺の分泌細胞で作られ、そこで貯蔵され分泌されるが、進行方向の決定は *Dianous* 属と *Stenus* 属では異なり、前者は光に対しての単純な反作用によるもので、後者は空と岸辺の縁とが形成する白と黒との対照に向って方向決定が行なわれるようで、この相異は生息環境の相異に関連があらうと述べている。

日本産の両属の種でも同様の習性が観察されるが、森林や畑地などに生息する *Stenus* 属のものにはこの習性はみられないようである。

末筆ながら貴重な標本を御恵与下された連日清、松木和雄、西川勝、鈴木互の諸氏、ならびに全型図を用意して下さった吉谷昭憲氏に深く感謝する。

参考文献

- JENKINS, M. F., 1957. The morphology and anatomy of the pygidial glands of *Dianous coeruleus* Gyllenhal (Coleoptera: Staphylinidae). Proc. R. ent. Soc. Lond., (A), 32: 159-168.
- 1960. On the method by which *Stenus* and *Dianous* (Coleoptera: Staphylinidae) return to the bank of a pool. Trans. R. ent. Soc. Lond., 112: 1-14.
- PUTHZ, V., 1971. Die bisher aus China und Formosa bekannten *Dianous*-Arten (Coleoptera, Staphylinidae). Ent. Rev. Japan, 23: 88-92.

甲虫談話会

会費(一カ年)1500円、次号は9月下旬発行予定、
投稿〆切は8月20日。

発行人 黒沢良彦

発行所 甲虫談話会 東京都台東区上野公園

国立科学博物館動物研究部内

電話(364) 2311 振替東京60664

昆虫の器具は「志賀昆虫」へ

日本ではじめてできた有頭昆虫針!!

1, 2, 3, 4, 5号(各号100本180円)

なお、有頭針00号もできました。その他、採集・標本整理用各種器具も取揃えてあります。

〒150 東京都渋谷区渋谷1丁目7-6

電話(03) 409-6401(ムシは一ばん)

振替 東京 21129

志賀昆虫普及社

タツミの昆虫採集器具

ドイツ型標本箱 木製大 ¥5,000、桐合板製
インロー型標本箱中 ¥1,400、送料一箱につき都
内及第一地帯: 3個以下 ¥1,400、4個以上 ¥850
(以下同様)、第2地帯 ¥1,400、¥950、第3地帯
¥1,600、¥1,050、其他、各種器具、針などを製作
販売しています。カタログを御請求下さい。(¥140)

タツミ製作所

〒113 東京都文京区湯島 2-21-25

電話(03) 811-4547、振替 6-113479